●タケウチトゲアワフキを見に行きました

本堀技術士事務所

客先の近くにある神社の境内で咲いているボダイジュの花を見に行ってきました。花から目を逸らすと葉裏や枝に「タケウチトゲアワフキ」の成虫を見つける事が出来ました。この虫は分布が極めて局地的で、なかなかお目に掛る事ができません。背中に大きなトゲが生えているのが特徴で、実にカッコいいです。まるで熱帯地方に生息するツノゼミの様な形なのですが、ツノゼミとは少し系統の異なる種です。

●タケウチトゲアワフキ（*Machaerota takeuchii*）とは

本堀技術士事務所

　タケウチトゲアワフキは本州、四国、九州に分布するカメムシ目トゲアワフキ科の昆虫で、体長5～8mm程度です。シナノキやボダイジュなどのシナノキ科の植物に寄生して樹液を吸いながら成長します。成虫は5月～7月頃に現れます。背中の大きなトゲは、背板の小楯板（前翅の付け根にある逆三角形の露出した部分）が変化したものと言われています。

●タケウチトゲアワフキの巣

本堀技術士事務所

　アワフキムシとは、植物の樹液を吸い、排出するオシッコを泡立ててこの中で生息するカメムシ目の昆虫なのですが、このタケウチトゲアワフキは石灰質の硬い筒状の巣を作り、幼虫はこの中で樹液を吸いながら成長します。栄養を得るために大量の樹液を吸うのですが、水分は不要となるため、オシッコを巣外へ排出し続けます。左写真は幼虫が巣内で成長している状態でオシッコを排出しています。右写真は羽化後の空巣です。